

小学生の視力過去最悪

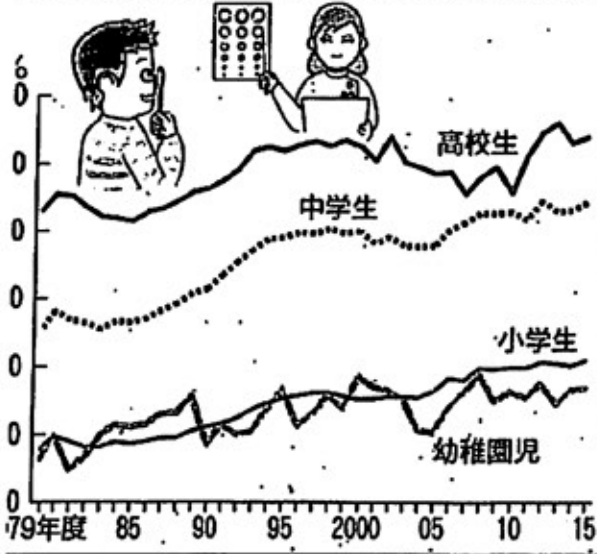
スマホなど原因か「1.0未満」30.9%

文科省まとめ

子供たちの視力低下が止まらない。文部科学省がまとめた2015年度の学校保健統計調査(速報)によると、裸眼視力が「1.0未満」の小学生の割合は30.9%と過去最高になった。幼稚園児も増加の傾向にあり、中学生は半数を超えている。専門家はスマートフォン(スマホ)や携帯電話などの長時間利用が視力の低下の一因とみている。

全国の5〜17歳の約335万人(全体の24.2%)を抽出して調査した。979年度は17.9%だった。1.0未満の小学生の割合は、調査を始めた1979年度は17.9%だった。1.0未満の小学生の割合は、調査を始めた1979年度は17.9%だった。1.0未満の小学生の割合は、調査を始めた1979年度は17.9%だった。

裸眼視力「1.0」未満の子供の増加傾向が続く



日本小児眼科学会の前理事長で川崎医療福祉大学の田淵昭雄名誉教授(小児眼科)は「幼いころからスマホなどの画面を長時間近くで見ていることが原因。家庭内でルール

で遊ばせたりして、目を酷使させないでほしい」と指摘する。一方、虫歯のある子供の割合は改善傾向が続く。高校生は52.4%で過去最低を更新。幼稚園児は36.2%、小学生50.7%、中学生40.4%で、いずれも前年度より減少した。